

松原市教育委員会 10月定例会 議事録

1. 日 時 平成29年10月30日(月) 午後4時00分

2. 場 所 松原市役所 3階301会議室

3. 付議事件等

(1) 議案 第21号 教育に関する事務の点検・評価結果報告書について

(2) その他 ・インターナショナルセーフスクール現地審査について
・公立幼稚園 新入園児申し込み状況について

出席委員 東野教育長 辰巳教育長職務代理者 松井教育委員 栗崎教育委員
田中教育委員 有馬教育委員

事務局 伊藤教育総務部長 瀧澤学校教育部長 高橋教育監 坂野市民協働部長
大倉福祉部長
浦井教育総務部次長兼教育総務課長
小川副理事兼学校給食課長兼ねて松原市立学校給食センター所長
横田学校教育部次長 青山市民協働部次長 森田福祉部次長
田中子ども未来室長兼子ども未来室参事
宮本教育政策課長 芝田文化財課長 平井教職員課長
山森教育推進課長 菊池地域教育課長 幸教育研修センター長
大浦いきがい学習課長 手束市民図書館長 金福祉部参事

東野教育長

それでは、会議に入る前にまず、ご報告のほうをさせていただきます。
平成29年2月より欠員となっておりました後任の委員といたしまして、有馬章亜氏が過日、市議会の同意を得まして、市長から教育委員の任命を受けましたのでご報告申し上げます。任期は平成29年10月4日から平成30年10月31日までとなっております。これは前委員の残任期間ということでございます。

それでは、今回新たに教育委員に就任されました有馬委員からご挨拶をいただきたいというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

有馬委員

皆様、初めまして、有馬章亜と申します。

今すごく緊張してしまして、何をしゃべればいいのかちょっとわからない状態なんですけれども、子どものために何ができるかなという視点で考えさせてもらいたいと思っています。せっかくの機会なので自分のできる範囲で精いっぱい頑張らせてもらおうと思ひ、このお話を引き受けさせていただきました。精いっぱい頑張らせていただきますので、皆様よろしくお願いいたします。

東野教育長

ありがとうございました。教育委員会にとりましても、6名全員そろいました。皆さん、よろしくお願いいたします。

それでは、時間となりましたので、会議に入りたいと思います。

ただいまの出席の教育長及び委員は6名です。定足数に達しておりますので、会議は成立しております。

(開会宣言 午後3時59分)

これより10月定例教育委員会を開催いたします。

まず、会議録についてお諮りしたいと思います。

8月定例会の会議録について、何かご異議ございませんか。

各 委 員

異議なし。

東野教育長

異議なしと認めます。よって、8月の定例会議録については承認と決しました。

9月定例会の会議録につきましては、まだでき上がっておりませんので、次回定例教育委員会でお諮りしたいと思います。

次に、本日の会議録の署名委員を指名いたします。

委員会会議規則第17条第2項の規定により、松井委員にお願いしたいと思っております。よろしく申し上げます。

松井委員

はい。

東野教育長

それでは、初めに、教育長報告を行います。

お手元の資料に基づき、報告させていただきます。よろしいでしょうか。

まずは、10月22日から23日にかけて、台風21号の接近により、避難所開設に当たり、長時間にわたり学校及び事務局の皆さん、出勤及び待機をしていただき、大変ご苦勞さまでございました。大変な雨量で心配しておりましたが、幸い、児童・生徒や学校施設等の被害はございませんでした。

それでは、お手元の資料に基づき、報告をさせていただきます。

この間の主なことといたしまして、先月から引き続き10月3日まで松原市議会第3回定例会が開催され、その最終日と庁議がございました。最終日につきましては、教育委員任命の追加議案があり、有馬委員の議会の同意を得たものでございます。

次に、10月5日の大阪府都市教育長協議会でございますが、これは国・府への要望書の最終取りまとめを行ったものでございます。

10月13日は、中央小学校の3年生が、障がい者福祉の学習の一環で車いすダンスの鑑賞や体験を行ったものを見学しに行ったものでございます。なお、この障がい者ダンサーの方は松原市の小・中学校の卒業生で、今も松原にお住まいの方でございます。

10月18日でございます。これも委員の皆さんと一緒に幼稚園訪問をさせていただき、園児の様子などを見て、園長先生と意見交換をさせていただいております。今日も2園行かせていただいたものでございます。

次に、10月20日から21日でございますが、これはセーフコミュニティー再認証取得に係る事前審査ということで、オーストラリアと韓国から審査員の先生をお迎えして、各部会から取り組みについて報告し、ご指導をいただきました。教育委員会では、特に関係する子どもの安全対策委員会については布忍小学校で行われ、セーフスクールの取り組みについても視察していただきました。審査員の質問に子どもたちがしっかり答える場面もあり、安心・安全の取り組みが根づいてきている様子を感じ取ることができました。

次に、ここには入っていないのですが、10月23日月曜日でございます

が、これは台北市の小・中学校校長等の学校視察がございました。安心・安全の学校づくり、交通安全教育についての視察という形で、今回、松原市の布忍小学校と三中、そして市役所で市の交通安全対策委員会の取り組みについて報告を受けたものでございます。

私のほうは、18時からの交流会に参加させていただきまして、大変楽しく交流させていただいたものでございます。

次に、10月26日から27日の近畿都市教育長協議会研究協議会でございますが、今年は研究協議会の担当地区が南河内地区となっております、本市の役割分担は講師担当でしたので、今回、車いすバスケットボール元日本代表キャプテンで松原市文化情報振興事業団理事長もお務めの根木慎志さんをお迎えしまして「素敵に生きよう」との演題でご講演をいただきました。大変好評でございまして、各近畿の教育長100名ぐらいいらっしゃったんですが、大体50名の方と名刺交換できたということ聞いております。

次に、10月28日でございます。今年最初の中学校区フェスタが松原第四中学校で開催され、教育委員の皆さんと一緒に、地域の方々に支えられながら子どもたちの頑張っている様子を見させていただいたものでございます。

また、この間に、各種団体の行事、また関係部署との会議のほうに参加しております。

以上、ご報告とさせていただきます。

なお、10月、11月は大変行事が多くなっております。委員の皆様にも精力的にご参加いただいております、非常にありがたく感じております。

以上、この報告につきまして、何か委員のほうからご意見、ご質問等ございますでしょうか。

それでは、ないようでございますので、これより本日の議事に入りますが、議案が1件、その他が2件となっております。

それでは、議案第21号「教育に関する事務の点検・評価結果報告書について」を議題といたします。

事務局より説明を求めます。

教育政策課の宮本です。よろしくお願ひいたします。

議案第21号「教育に関する事務の点検・評価結果報告書について」をご説明させていただきます。

お手元に資料はございますでしょうか。

宮本教育政策
課長

平成28年度の点検・評価につきまして、今回から様式を変更し、平成28年12月に策定されました松原市教育振興基本計画（前期計画）の内容に合わせたものとさせていただきます。順番にご説明のほうを申し上げます。

配付いたしました報告書の1ページをごらんいただきますようお願いいたします。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定により、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、教育に関する学識経験者の知見を活用して、その結果に対する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しなければならないとなっております。

本市教育委員会におきましても、このことにのっとり、効果的な教育行政の推進と説明責任を果たすため、本年度も報告書を作成し、公表するため、本定例教育委員会にお諮りするものでございます。

それでは、報告書の2ページをお開きください。

平成28年度の教育委員会活動としまして、29年3月31日現在の教育委員のお名前と教育委員会会議の開催状況を掲載しております。

次に、4ページからは、その他の主な活動状況といたしまして、協議会等の会議、研修、各種行事、大会などへの参加状況を掲載いたしております。

次に、6ページでございます。

昨年度との改正点といたしまして、松原市教育振興基本計画に基づいた取り組みの主なものを評価対象として点検・評価を行い、その進捗状況を総括するとともに、今後の課題や対応を示すものとして点検・評価を行うとしております。

評価基準につきましても、以前はA、B、Cの3段階による評価でしたが、教育振興基本計画にある目標値に向け、どの程度の進捗状況であるかをできるだけ細かく評価するため、5段階評価とさせていただきます。

また、客観性を確保するため、本市教育委員会の元委員長、京都大学名誉教授の稲田氏と本市と包括的連携協定を締結しております阪南大学副学長の神尾氏のお二人にご意見をいただいたものでございます。

次に、7ページから22ページにかけまして、教育委員会にて平成28年度に取り組みました施策におきまして、主な取り組みについての成果、今後の課題と対応について記載しております。

また、自己評価につきましては、23ページから27ページに記載し、教

育振興基本計画の目標値についての進捗状況から見た点検・評価を行ったものでございます。

次に、28ページから30ページにかけましては、外部委員からいただきました意見を掲載させていただいております。いただきました貴重な意見を今後の施策に反映してまいりたいと思っております。

以上、申し述べましたこれらの内容を平成28年度教育に関する事務の点検・評価報告書にまとめさせていただきまして、議会に報告するとともに公表してまいりたいと思います。

また、例年でしたら、2月の定例教育委員会にご報告させていただき、3月の松原市議会に提出しておりましたが、本年より12月議会のほうに提出させていただきたいと考えております。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

東野教育長

報告をいただきました。

それでは、この件について何かご意見、ご質問のほうはございますでしょうか。

田中委員

評価を見させていただきますと、3以上でこれがいいということなのか、3というのはちょっと気になるんですけども、評価3、この中で学力向上の取り組み、そして一番大事な安心・安全、何かその項目なかったですか。

瀧澤学校教育
部長

24ページ。

田中委員

24ページ、安心・安全ですね。これも3ですよ。この辺、何か重要なところでちょっと評価が低いような気がするんですけども、この点について、逆にどういうお考えをお持ちなのか、聞きたいんですけども。

宮本教育政策
課長

3という評価につきましては、目標値に向けて一定の評価はありましたが、ただ目標としているところの数値には届いておらず、今後の改善が多少必要であるというふうな評価でございます。

田中委員

ということは、その年の目標値を定めているわけですよ。それには達していないということですよ。その目標値に達するがためにどういう反省点があるのかというのはあるわけですよ。

宮本教育政策課長	そこにつきましては、「今後の課題と対応」のところに記載をさせていただいていると思います。
田中委員	すみません、そのところは読めていません。申しわけないです。 そういうことで、要は評点が低い、高いというよりも、下の評点のものをやはり上に上げていくというのが大事だろうと思いますので、その辺だけちょっと注意して、我々も含めて、やっていく必要があると思いますので、よろしくをお願いします。
伊藤教育総務部長	失礼します。 教育振興基本計画が平成30年度を目途としておりますので、今、平成28年度というのはまだ途中ということもございますので、その意味でも3、4というところは出てまいっておるということもご理解いただきたいなと思っております。よろしくをお願いします。
田中委員	28年度の評価が29年の下期に。
東野教育長	そうそう。30年度の目標の数値。30年度には5になるやろうということですね。
田中委員	いや、ちょっと気になった。ちょっとスピード感があれかなという気がしたんですけども、いいです。すみません。
東野教育長	先ほど23ページの評価3にはなってるんですけども、実際、前のときを見れば、全体的にはよくはなってるわけですね。
瀧澤学校教育部長	学力向上に向けては、小学校、中学校とも経年変化を見ますと上昇傾向にございます。ただ、ここに示してある3年間の目標数値ということを見ましたときに、現時点では昨年度末までの状況を見ると3ということでございまして、ここからさらに課題を解決しまして、少しずつ、また30年度末までには上げていこうということで考えております。 以上でございます。
東野教育長	私のほうから先ほどのところで、Aの1については、実際の学力評価結果にはその年度によって上がったたり、下がったりするのかなと思うん

ですが、例えばAの2であるとか3とか4というものが本来はそういうことがあって、初めてAの1の結果としてあらわれてくるというふうに私は思っておるんです。

この辺でAの2とか3とか4の取り組みなんですけど、この辺は今、どんなふうな取り組みをなされておられるのか、ちょっと教えていただきたいんですけども。

山森教育推進
課長

教育推進課の山森でございます。

ただいまご質問ございましたAの2、3、4というところでございますけれども、Aの2、3、4というのは、まさに授業の中で教員がどのような工夫をすることで児童・生徒の考えに対して発表する機会、そういったことだとか、それから、読書好きの子どもたちをふやすことであつたり、家庭での学習時間をふやしていくことであつたりと、こういったことにつながっております。

こういったことにつきましては、学力向上アクションプランという計画がございまして、そちらのほうで各学期ごとに子どもたちの意識を調査して、こちらの数字に反映させていただいております。

加えまして、私ども指導主事が学校に出かけていった際に、やはりこういったポイントを押さえながら、各学校での学力向上につなげていくためには、やはり子どもたちに授業中に自分の考えをどんどん発表できるようなクラスづくり、そして授業づくりが大事ですよといったことでもありますとか、それから、家庭学習の工夫におきましては、ある小学校ではこういった工夫がありますとか、中学校ではこういった工夫がありますので、各校の実態に応じて、そういったいい部分を取り入れて、お互いが切磋琢磨をしながら松原市全体の学力向上につなげてほしい、こういったあたりをポイントにしながら学校指導している一つの結果でございます。

以上でございます。

東野教育長

ありがとうございます。

辰巳委員

同じところですけども、昨年度もやっぱり同じ評価で、家庭での勉強時間が少ないということを強く感じておったんですけど、28年度について、またさらに27年度よりも学習時間が少なくなっているということのようです。これについては、やっぱり、もちろん原因は例えば家へ帰るとゲームをやったり、学習以外のことに関心、時間を費やしてるという

ことだろうと思うんですけども、これは家庭での親御さんたちの教育やしつけへの関心ということもあるでしょうが、同時にやっぱり、より一層学校の指導強化ということが大事だろうと思いますので、徹底していく必要があるんじゃないかというふうに思います。

山森教育推進
課長

ありがとうございます。今、辰巳委員のほうからご指摘のございましたAの4だというふうに思われますけれども、こちらのほう、平成27年度は「家庭に帰って30分以下の学習の子どもたち」が19.9%と、ほぼ5人に1人がそれぐらいの数字であると。28年度のほうにつきましては若干それが減ったという判断をしていただければありがたいです。

ただ、委員がおっしゃられたように、まだまだ全国との数字を比べてみますと、やはり家庭での学習時間も短いということがこの数字からもわかっておりますので、学校のほうから家庭での過ごし方、もしくは学校側のほうから言いますと、宿題、家庭学習の出し方の工夫というところもまだまだ十分やっていかなければいけないのかな、このように思っておりますので、また頑張ってやっていきたいと思っております。

辰巳委員

失礼しました。より一層、また指導強化していただけたらと思います。

栗崎委員

中学生になりましたら、非常に部活が盛んになってまいります。私が接してる子どもたちにおいてはすごく部活が好きで、非常に活発に、「ソフトボールの試合もあるから見に来てね」とか言われるんですけど、松原の中学生は全般的には部活に入ってる子は何割ぐらいでしょうか。ちょっとこことは関係ないかもわかりませんが。

横田学校教育
部次長

申しわけございません。今、正確な数字は、資料をちょっと持ち得ないんですけども、加入率でいいますと、男子も女子も当初は9割ぐらい、加入します。ただ、いろんな理由によって途中で退部、転部等もございますけれども、9割方は加入しているというデータがございます。また、正確な数値は後日、お示しいたします。

栗崎委員

子ども食堂のある日なんですけど、宿題も持ってきて、そこで8時15分までさせてとか言って一生懸命やっているんですけど、頑張っているなという姿勢が非常に見られて、先生もすごく子どもに寄り添っていただいている。前にもお話しさせていただいたように、寄り添っていただいているんですね。そこは私、すごく松原っていいところだなと。もっと

評価してもらいたいなと思うところがございます。ありがとうございます。

松井委員

よろしいですか。

東野教育長

どうぞ。

松井委員

評価5がついているんですけども、頑張ったところは何なんでしょう。スポーツに親しむ環境づくりのところなんですけども、さらに28年度の現状でもう30年度の目標を達成しているので、さらなる上の目標に変えなくてもいいんですか。達成したら、さらに上を目指してやっていただかないと、あかんでしょう。5ついてるんで、これで終わりとかというのではなくて、これだけスポーツ施設を利用してるというのはすごいなと思っているんですけども、その辺はどのようにお考えなんでしょう。

大浦いきがい
学習課長

いきがい学習課の大浦です。よろしくお願ひします。

スポーツ施設の利用者数についてなんですけども、平成26年度から体育館、道夢館、市民プールで指定管理者制度を導入しております。

また、そういった中で市民サービスの向上ということを目指して、自主事業ということで、指定管理者が今まで直営でやっていたときよりもいろんな形でスポーツ教室を新たに展開していただいて、なおかつ今までの利用者であった体育協会とかそういったところも利用していただいて、あと、体育館でしたら、トレーニング室に機械を導入していただいて、新たにそちらもかなり利用者数が増加しております。そういった形で今回、指定管理者制度を導入したことについてはかなりよかったのではないかなということで、全般的にそういう形にさせていただいています。

また、うちの管轄外にはなるんですけども、市民グラウンドも平成27年度に比べまして、若干利用者数がふえておりまして、28年度で70万人の利用者数を越えているという形になっております。

そういった形で全体的には利用者数がふえているんですけども、スポーツを今までされたことのない方もしていただけるような環境づくりをますます進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

松井委員

一つお聞きしたいんですけど、体育館を借りるときに、学校関係は料

金や抽せんとか優遇されるのでしょうか。例えば私立の幼稚園なんかがここを使う場合は、教育関係ということなので利用料金が公立と一緒にあるとか、もしくは運動会を体育館でしたいという場合は優先的に使わせていただけるとか、そういう仕組みはあるのでしょうか。

大浦いきがい
学習課長

すみません。今現在、体育館なんかでしたら、アリーナのほう、一番広いところについてはかなり人気がありまして、市の直営の事業をちょっと優先させていただいて、そのほかについては抽せんという形にはなっているんです。民間の団体さんなどについては、一旦登録させていただいてという形にはなっているんですけども、実際、その辺は優遇するとなると、ちょっと今、調整ができるかどうかというのがかなり厳しい状況にはなっています。公立、民間合わせたような大会でしたら、その辺はまた調整させていただいているというような現状になっています。

松井委員

私立幼稚園などでここを使いたいという場合、市にかわって幼児教育を担っているわけですから、同じように、また料金的にも、優遇してもらえるようなそんな制度。それから、例えば運動会をするのに、「毎年抽せんです」とかと言いはるんで、教育関係の、しかも運動会のような大きな行事とかというようにときには少し考慮してあげられるような市であってほしいなと思っております。これは一度、ご検討いただければと思います。そんなニーズがあるのかないのかは知りませんが。

瀧澤学校教育
部長

すみません。市立の小・中学校なんですけども、こちらのほうは施設開放という形で民間問わず、そういう形で開放しておりますので、PTAの方もそうですし、地域の方、いろんな方が、小さいお子さんから高齢の方まで使用していただけるような形でございます。

松井委員

雨やから、体育館で運動会したいと思ってもできないし、私の知る限りでは対応は冷たい。他市の話です。他市の話ですけれども、冷たい。以上です。

東野教育長

ほかに何かありますか。
それでは、ほかにご質問はないように見受けられますので、議案第21号「教育に関する事務の点検・評価結果報告書について」を可決することにご異議ございませんか。

各 委 員	異議なし。
東野教育長	<p>異議なしと認めます。よって、議案第21号「教育に関する事務の点検・評価結果報告書について」は可決されました。</p> <p>続きまして、その他案件に移ります。</p> <p>まず、「インターナショナルセーフスクール現地審査について」、事務局より説明のほうをお願いいたします。</p>
山森教育推進課長	<p>失礼いたします。</p> <p>お手元に I S S 現地審査日程ということで A 4、1 枚のものがあるかと思いますが、ございますでしょうか。</p> <p>I S S と申しますと、インターナショナルセーフスクール、こちらの認証に向けまして、松原第三中学校と布忍小学校、それから、中央小学校が平成27年5月にこちらの I S S の取り組みに着手宣言をしてから足かけ3年になろうとしております。</p> <p>いよいよ11月13、14日と両日にわたりまして、ニュージーランドより海外の審査員を招きまして審査を行います。この3年間の取り組みを見ていただいて、審査の結果、認証になるかどうかという最後の審査になるわけですが、こちらのほう、13日の午前中は市のほうにお越しいただいて市の概要説明、午後は中央小学校、14日は午前が布忍小学校、午後、第三中学校にお越しいただいて、それぞれの学校での審査というふうになっております。もし、教育委員さんのほうでこの部分で一度見てみたいというようなことがございましたらと思ひまして、ご案内を差し上げているところがございます。日程等ございますので、もし一部分だけ、14日の午前中だけでもというようなお話がございましたら、できましたら、11月6日あたりまでにご連絡をいただきましたら、参加のほう、座席等の調整もさせていただこうとこのように思っておりますので、どうぞよろしく願いをいたします。</p> <p>以上でございます。</p>
東野教育長	<p>説明のほうが終わりました。</p> <p>この件については何か。</p>
松井委員	<p>これ、11月13日の午前中というのは別に参加しなくてもいい、したほうがいい。</p>

山森教育推進課長	<p>前回、実はニュージーランドから同じように審査員を招きまして、事前の指導を行っていただいたわけですがけれども、そちらには特に参加をしてくださいというご案内はしておりませんので大丈夫だと思います。</p>
東野教育長	<p>別に参加していただいて結構です。</p>
松井委員	<p>いいです、いいです。</p>
東野教育長	<p>ほかに何か。よろしいですか。</p> <p>そしたら、この13、14日の2日間、午前、午後と行いますので、また各委員さんのご都合のつく時間帯でぜひ見に来ていただきたいというふうに思っております。この3カ年、子どもたちの頑張った成果を子どもたちが中心の発表になると思っていますので、その辺よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、ほかにはないようでございますので、次の項に移ります。</p> <p>次は「公立幼稚園新入園児申し込み状況について」、事務局より説明のほうをお願いいたします。</p>
田中子ども未来室長	<p>子ども未来室の田中でございます。よろしく申し上げます。</p> <p>まことに申しわけございません。表題がないこのような書類が一部入っているかと思っております。</p> <p>来年度、平成30年度の幼稚園の新規申し込みの児童数でございますが、内訳を申し上げますと、松原幼稚園、4歳児で7名、5歳児の新規申し込みはございません。恵我幼稚園のほう、4歳児で22名、5歳児の新規申し込みはございません。三宅幼稚園で4歳児12名、5歳児さんのほうはございません。松原西幼稚園で4歳児さん11名、5歳児さんの申し込みはございません。まつかぜ幼稚園で4歳児さん15名、5歳児さんで1名、四つ葉幼稚園の3歳児42名、4歳児16名、5歳児1名、合計3歳児が42名、4歳児が83名、5歳児が2名の新規の申し込みがございました。</p> <p>右の表は来年度の4月1日の予定人数でございます。四つ葉幼稚園を除く各幼稚園、4歳児さん、5歳児さんで各1クラスずつ、四つ葉幼稚園につきましては、各年齢2クラスずつのクラス編制と考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
東野教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>説明のほうは終わりました。</p>

この件について何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。

栗崎委員

すみません。四つ葉幼稚園の3歳児の件なんですけれども、これ定員は何名ですか。

田中子ども未来室長

定員は50名で設定をさせていただいております。

栗崎委員

50名で42人ということですね。ありがとうございます。

田中委員

質問というのか、幼稚園、四つ葉以外の募集定員に対して、新規申し込みというのが非常に少ないわけなんですけれども、これはこれでよしとすべきなのか、いやいや、どうなのかということ考えた場合、どうなんでしょう、変な言い方なんですけど。

田中子ども未来室長

非常に難しいところにはなるんですけども、各幼稚園、各学年2クラスずつとれるお部屋のほうを用意させていただいております。また、1クラス定員数といいますのも、クラス編制上35人というふうな形での編制ができますので、最大で70名とれるというふうに考えております。ただ、昨今の状況から、先生の数等も勘案しますと、大体各幼稚園各学年で1クラスずつ編制、四つ葉幼稚園が各2クラスずつの編制をできるだけの先生の用意もさせていただいてるという状況でございます。

以上でございます。

田中委員

すみません。確かに将来的に見たら少ないんじゃないの、だから、ここは統合だとかいう話も出てくるのかなとは思いますが、ただ、別なところに目を向けて、地域の保護者というんですか、お母さん方というのはやっぱり近くに幼稚園があるほうが非常に便利だと、送り迎え等々する場合に。それをあえて統合というのはまた遠いところに行ってしまうというような、それはちょっとしんどいなというような意見もちらっと聞いたこと、耳にしたことがございますので、その辺も含めると、遠い将来になるのか、近い将来になるのか、難しい選択はしなければいけないとは思いますが、その辺の事実もやはり、保護者等見てというんですか、そういったものも勘案しながら検討していく必要があるんじゃないかなという、個人的な意見なんですけれども、思っていますのでよろしくをお願いします。

田中子ども未来室長	<p>以前から若干お知らせさせていただいておりますけども、各公立幼稚園の老朽化もかなり進んでおります。その点でも施設の更新が必要と考えているところ、今、保育所と幼稚園のいいところをあわせ持った認定こども園というふうなものの計画を考えているところです。時期の特定し次第、一定の保育所、幼稚園を統合した上での整理というふうなものを進めていきたいと考えております。また時期等、詳しくわかりましたら、教育委員会のほうでまたお諮りいただけたらと考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
松井委員	<p>それ、いつわかるの。ずっとやっているように思うんですけど。いつ、何月何日に発表しますとか言っただけだと助かるんですけど。難しいのはよくわかっているんですけども、決めてやらんと進まない。</p>
田中子ども未来室長	<p>現在、新たな候補地の土地等を探してるところでございますので、そのめどがつき次第、お知らせできるかと考えております。もうしばらくお待ちいただけたらと思います。</p>
東野教育長	<p>取得できれば出せるのかな。そこはちょっとご辛抱いただきたいと思います。</p> <p>ちょっと私のほうからですが、大分、担当課としては頑張っていたいてるわけでございますが、今日も実は恵我幼稚園に行っまいりました。</p> <p>恵我幼稚園は今現在の5歳児が、大体二十二、三人いらっしやって、4歳児が10人という形でございました。やはりクラスごとに活動というか、子どもの元気さというのを見ますと、やはり10人と20人ぐらいのクラスにいた子たちでは全然違います。これはなぜかという、次のまつかぜ幼稚園に行かせていただいたんですけども、総トータル数は一緒なんですね、一応。クラスが十何人ずついらっしやる、二十人近くいらっしやるというところで、やはり同じ4歳児でも活力が違うのかなというところで、私の見る限り、やっぱり10名を切るようなクラスというのは、幼稚園としては大変厳しいというふうになるんじゃないか。もし、こういう状態が長く続くようであれば、今後、休園もやはり考えざるを得なくなるんじゃないかなというふうには思っておりますので、そうならないように、ぜひまたいろいろ園児も集めていただきまして、また公立幼稚園のよさも出していただいて、また場所によっては大きくふえるとい</p>

う形もあろうかと思imasので。

一つは大きく、認定こども園としての統合もありますし、もし今ある幼稚園で子どもがまたふえれば、それはそれでまた幼稚園として生き残っていただいたらいいかと思っておりますので、その辺、園児数等をよく見ていただいて、またいろいろな計画を今後もやっていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

ほかに何かご意見、よろしいですか。

栗崎委員

すみません。幼稚園の月謝は幾らですか。それと、私立とどれぐらいの差があるのか、教えていただけますでしょうか。

田中子ども未来室長

今、公立幼稚園のほうに入られますと、平成30年度の4歳児さんでは1万5,800円から、一番高いので1万9,200円というふうな形で段階的になっています。私立と比べますと若干の軽減があります。一番最高額で私立、1号認定で入られてる方は国の基準と同じになりますので、2万5,700円のところが、1万9,200円という形になっております。

下の階層で2階層というふうな非課税世帯については、国の階層も3,000円になってますので、これは市のほうも3,000円というふうに変わらない。あとは所得に応じて若干の階層間の差が出ているという形になります。

ただ、平成31年度からは、国の階層と市の階層が同じになりまして、国の金額と市の金額が同じになります。

栗崎委員

31年度から。今一番多いのは幾らぐらいになっているところが一番多いんですか。

田中子ども未来室長

今、私どものほうで把握しているのは、一番多いのが第4階層と言われているところ、一番所得の多いところではなくて、その1個下が一番多いと考えておりますけど、そこのところで1万5,800円。国のほうでは2万500円といった請求になります。

栗崎委員

ありがとうございます。

辰巳委員

では、統合ということを先ほど室長もおっしゃっていたんですけども、これは各幼稚園の現在の園児の数が少ないから統合していくということだけなのか、それとも保育所も含めて、今、保育所と幼稚園との連携というのはやっていらっしゃるように思うんですけども、そういう統

合ということはあるんですか、教えてください。

田中子ども未
来室長

松原市のほうで行う認定こども園化といいますのも、幼稚園と保育所を合わせるといふような形を考えております。ですので、0歳から5歳のお子さんまでが一緒の施設で教育、保育を受ける。特に3歳、4歳、5歳のお子さんについては、保育所に行かれてる方も幼稚園教育をしっかり受けてもらうといふようなものでございます。

そうなった場合には、単独の保育所、単独の幼稚園、認定こども園という3つの施設が誕生することになりますが、どこの施設に行かれてもきっちりとした教育が受けれるように、また幼稚園に行かれていても、きっちりとした延長保育であるとか、預かり保育とかといふようなもので就労支援を進めていきたいと考えているところでございます。

以上です。

辰巳委員

先日は四つ葉、そして、今日、恵我幼稚園を見学させていただきました。やっぱり比較してみると、園児の多いところのほうが子どもたちも非常に生き生きして活発で、いろんな活動を楽しんでる。やはり、園児の多いほうが刺激があるといふのか、子どもたちにとっても。それが子どもの成長を助けるような気がするんですけども、そういう意味でも、規模の余りに小さい幼稚園ではなく、やはりより規模を拡大していくということは大事なのかなと思っております。

以上です。

有馬委員

統廃合の話なんですけれども、私の真ん中の子がちょうど天美幼稚園にいたんです。そのときにちょうど統廃合の話、四つ葉幼稚園になったときに、天美幼稚園のほうに職員さんが来て説明していただいたときに、やっぱりお互いに初めてということなので、険悪じゃないんですけど、意見とかすごくぶつかったこともあるというし、いろんな話を聞いて、その中で私が感じたのはやっぱりお母さん方がすごく不安になられていたので、どうしても職員さんにぶつけてしまったということだったんです。なので、次に、もし仮に統廃合があるのならば、わかった時点でできるだけ早く言ってもらえれば、お母さん方の不安がすごく少なくなると思うんです。不安が少なくなると、やっぱり統廃合の話も多分お互いに一緒に考えていけるという点で進めやすくなると思うので、できれば早く、多分すごく難しいことだと思うんですけど、お願いしたいなと思います。

田中子ども未
来室長

私どもも同じ意見でございますので、わかり次第、保護者の方にはきちんと説明をさせていただこうと思っております。

また、子どもさんの状況が私どもは一番やっぱり気をつけていきたいと考えておりますので、統合があるというふうなことになりましたら、園児さんの交流ですね、どんどん進めていって、スムーズな移行をしていきたいと考えております。

東野教育長

よろしいですか。

今、田中室長が言われましたように、もし統合等ございましたら、園児のことをよく考えていただきまして、それを中心に、第一に進めていただきたいというふうに思います。

これで、あと、ほかに質問はないようでございます。

ほかに事務局から何かございますか。

山森教育推進
課長

失礼します。

お手元にB4版の追加ということで、こういった資料を置かせていただいておりますかと思っております。平成27から29年度の松原第七中学校区の研究発表会の案内ということでございますが、こちらは松原市が特に重点的に進めております校区における子どもたちの育成ということで、このたび松原第七中学校が3年目の研究指定を終えるに当たりまして、この3年間の研究発表を企画しております。当日は、第七中学校のほうに幼稚園、小学校の子どもたちも集まりまして公開授業、後にこの間の取り組みの報告、こういった中でやっておりますので、もしお時間許すということであれば、またこちらのほうもご検討いただければと、このように思っております。こちらのほうはまだ少し、先ほどのISSより1週間ほどおくれますので、11月10日あたりぐらいまでに参加等、もしご希望されるということでありましたら、ご連絡いただきましたら、またそのように体制を組んでまいりたいと、このように思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

東野教育長

ありがとうございました。

今の報告は特にご意見ございますか。

ほかに。

幸教育研修センター長

教育研修センター、幸でございます。

先ほどの I S S の現地調査日程の紙があったと思うんですけれども、これも第三中学校のところ、11月14日火曜日の午後なんですけれども、ここで現在、パソコン室のパソコンを入れかえているのと同時に、1人1台のタブレットを使って授業ができるような環境を整えてございます。この現地調査の中で、1人1台パソコンを使っての授業というところも見学ができますので、ぜひとも現地調査と同時に、パソコンを使った新しい授業というところも見に来ていただけたら幸いと考えております。よろしくお願ひします。

東野教育長

ありがとうございました。

ほかにございますか。

ほかにないようでございますので、以上で本日の日程については終了いたしました。

これをもちまして、10月定例教育委員会を終わります。どうもありがとうございました。

(閉会宣言 午後4時53分)

署 名 教育長 東野 光弘

委 員 松井 直輝